

---

# 手記：「愛とは何だったのだろうか」

御津 貴広

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

手記：「愛とは何だったのだろうか」

### 【Nコード】

N8950R

### 【作者名】

御津 貴広

### 【あらすじ】

恋に敗れた男の日記に綴られた1ページ

お題は「好きなのに別れないといけない」

はたして、何故そうなったのか？

彼の歴史へと、さあ、いらっしやい

私は自分の身に起きたことが不思議でたまらない。

あれは二週間前のこと、結婚式を挙げることに「失敗」した。私は私の常識というものが打ちのめされ、そのあまりの現実味の無さに何が起こったのか未だに理解できていない。

ただ言えることは、私は不幸のどん底に居るが幸せ者だということだ。

結婚式当日、私は妻となるはずだった女性に逃げられたのだ。

「逃げられた」というのはいささか語弊がある。彼女は私のほかに愛する人が居たのだ。

「奪われた」と表現しても良いだろう。男からすれば、ね。

彼女、玖美は元来浮気性の気があったが、心から愛してくれているのは私だけだと思っていた。

だから、彼女が浮気していることを知っていながら、黙っていたのだ。

・・・しかし、現実はず違った。

「クラッド、ごめんなさい」

そう、悲しそうに彼女は言葉を残して私の前から去っていった。

このとき、彼女がもうひとつ私に言葉を残した。

「好き、大好き。別れたくない・・・。けど、どうしても別れなければいけないの。私は私に課せられた責任を果たさなければいけない。きつと、全てを話しても現実主義者の貴方には理解してもらえないだろうから、ワケは言わない。・・・ありがとう、そしてさようなら」

辛かった。ただ、ただただ辛かった。何故愛する二人が別離しなければならぬのか、僕には理解できなかった。

だけど今日、ようやくわかったんだ。

そう・・・あれは君と別れてから丁度一週間。僕たちの共通の友人にレイアがいるだろ？あの子が僕を尋ねてきたんだ。

最初は、結婚式残念だったね、と僕をいたわる口上から始まった。しかし、次第に僕には理解できない話が彼女の口から語られたのだ。

「クラッド、貴方は英国紳士よね？」

「ああ、これでもハイランド生まれ、イングランド育ちだ」

「妖精って信じてる？」

「彼らがいたら、僕の生活はさぞ楽しかっただろうね。けど、僕の周りには居ないよ」

英国では、妖精の存在は一般的に信じられている。が、中には僕みたいにフェアリーテイルをただの御伽噺だとして片付けてしまう人間も居る。

「そう・・・それじゃあこれから話すことは御伽噺だと思ってもらっても構わないわ。ただ、これは真実よ。受け取るのは貴方次第、ね」

そう真剣な表情をして語りだした彼女の顔に僕は笑ってしまいそうだったが、次に彼女が口にした言葉のせいで僕は固まった。

「玖美が貴方と別れた本当の理由。それを伝えに来たわ」

「なん・・・だって・・・？」

「ええ、気になるでしょ？だけど、その理由は御伽噺のようなもの。私も、最初は信じられなかったわ」

「・・・聞かせてくれ」

普段なら茶化すところだが、理由が理由だ。

「あの子ね、いま元カレと復縁したの。元カレと復縁せざるを得なかったから、愛する貴方と別れるしかなかったの」

「何か弱みを握られてるのか！？」

「落ち着いて！そうじゃないわ・・・その元カレさんはね、自分の中に神に近い存在が住んでるの」

その言葉に、僕は苦笑した。

「・・・それは面白いジョークだ」

「冗談なんかじゃないわ。本当よ。日本の、八百万の神という概念を知ってるかしら？」

「わからないな。学者の君みたいに、博識じゃないからね」

「もう、私が自分の職業を気にしてるの知ってるでしょ！」

「悪い、続きを頼む」

「もう、それでね、八百万の神っていうのは『森羅万象、全てに神が宿る』というもので道端の石ころにも神様が居るっていう考えなの」

「なるほどね・・・。それとどう関係が？」

「ええ、その中でもそれを統括する神様がいるの。その神様のうち一人が、その元カレさんの身体を時々使って現世に現れることがあるの」

「大層なことだな」

「本当に、本当にね・・・」

そこで一旦話を区切ると、レイアは供されたティーカップを手に取り紅茶で唇を湿らす。

ソーサーにカップを置くと、カタリと無機質な音が響き、それを合図にまた彼女は話を再開した。

「3日前に起きた、イタリア沖の大地震。知ってるわよね？」

「ああ、僕も友人が何人か被害にあってる・・・。津波で港はめちゃくちゃだ」

「あれね、その元カレさんの身体使ってる神様が怒ったからなの」

「はあ？」

さすがに、理解が追いつかず抜けるようなマヌケな声で疑問符が出てしまった。

「そうよね、信じられないわよね。でも、事実なのよ」

「・・・全部聞いてから判断するよ」

「ええ、わかったわ。元カレさんの悲しみに、元カレさん自体の魂が耐え切れず、消えてしまっただったの。それで、元カレさんが

消えてしまつとその神様は困る……。浮気や移り気ばつかしてる  
玖美に対して、とうとう怒つた神様は下位の神の指揮をとつて地震  
を起こさせたの。いわば、天罰」

絶句、するしかなかった。それが事実だとすれば、自分の恋愛が  
世界を滅ぼすところだったということか？信じられない。

「結局、その天罰を垣間見た玖美は身を引くしかなかった。自分の  
行いが全て悪いなら、他人を犠牲にしてまで自分の愛を貫くことが  
できない、そう考えたのよ」

「馬鹿な……。そんなの……。自然災害、特に地震なんてものは  
起こる時がくれば起きる災害だ……。無関係だろ……」

「そう、思うわよね……。ほんとのこと言えば、私もよ。私も、  
無関係だと思うわ。だけど、事実なのよ。彼女にとっては」

理解の範疇を超えすぎていて、処理がおいつかない。だが、続け  
られた彼女の言葉だけはしっかりと耳に届いた。

「今でも、彼女は苦しんでるわ。貴方を愛して、愛して、愛して止  
まないのよ。好きで好きでしょうがなくて、つらくて、元に戻りた  
くて……。でも、できないから、せめて友人に戻りたいけど、あんな  
ことを仕出かしたあとではそれもできなくて……。彼女は、今  
でも貴方を愛してるのよ。今までの御伽噺は信じられなくてもいい  
けど、そのことだけは信じて。貴方が、本当に玖美を愛していた  
のなら、どうか信じてあげて」

「……」

何も言えなかった。そのことが事実ならば、どれほど嬉しいこと  
か。彼女の御伽噺がウソだろうと本当だろうと、そのことが事実で  
あれば、いつか実ることもあるだろう。彼女が、僕の元に戻ってき  
てくれるときが、きつといつか来るだろう。

「ああ……。信じる。信じてみせるさ。僕は、彼女のことを愛して  
いるからね。彼女の連絡先を教えてくださいませんか？」

そういつて、僕はレイアに微笑んだ。泣きながらね。

(後書き)

はじめまして

御津 貴広です

もし、貴方の身に、こんな「別れ」があっただらどうしますか？  
信じられませんよね

でも、恋人のことを愛していたら受け止めてあげて欲しいのです  
それが、どんなに信じられないことでも「受け止めてあげて」くだ  
さい

その内容が自分の意見と違うなら、それはそれでいいんです  
「わかった。君の言ってることは理解した。けど、僕の意見はこう  
だ」

平行線

恋人と同じ視点、視線に立ってください

平行線です

きっと、見えてくる世界があると思います

新しい、世界が

チェスを指す時に「相手ならどう指すか」

これを意識して指すのと似ています

「相手ならこう指すだろう、しかし私ならこうだ」  
相手の出方を受け止めて、それに切り返す  
なんと、恋愛とはチェスに似ていることでしょうか

勝負は、完全につくまでわかりません  
自分から、負けを認めているようではまだまだです  
勝ち取ってください

勝利を

キングを取るのです

辛い時はドローゲームに持ち込んで、なかつたことにするのもひとつの手ですけどね

以下どうでもいいこと

私的なことですが、ツイッターやっています  
@iris\_marning あやめ  
といます

なにかあれば、あやめまでご連絡

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8950r/>

---

手記：「愛とは何だったのだろうか」

2011年3月24日18時25分発行